■若尾委員　そうですね。これもそうなんですけれども、この冊子も大体1冊 30 円ぐらいかかっているんです。このレベルで 30 円ですので、今度これが 300 ページになると、ロットが増えるので、全体のコストは落とせるんですけれども、本当にそれを刷って届ける。

■中川座長　300ページでなくてもいいのではないですか。300ページもあったら、逆に読まないですよ。

■若尾委員　そうですね。それで、今、考えていますのは、こちらにがん種別の冊子がありまして、こちらを本当にがんと告知されたときにお渡しする。そうすると、こちらは非常にコンパクトにまとめていて、最低限これからどういうことが起きるのかということをお伝えするようなコンセプトでつくらせていただいていますので、まずこれをお渡しする。

ただ、少し時間が経ってくると、もっとこういう情報も欲しい、こんな情報も欲しいと、少し落ち着いてきた段階で、300 ページは要らないかもしれませんけれども、より広い情報をお渡しすることによって、今、がん難民ということが言われてしまっていますけれども、どこに行けばどういうことがわかる、どういう援助が受けられるということをお示しすることによって、正しい治療を受けていただくことをサポートするということを考えています。

この冊子は、まだ 300 ページのたたき台の時点で、これからいろいろページ割を考えているところなんですけれども、パネルの皆様などから御意見をいただきながら、今後中身をより詰めて、その結果、もっと薄くなるかもしれませんし、冊子Bがもっと厚くなるとか、そんなことも可能性としてはあるかもしれません。

たばこの煙から子どもを守るには

■中川座長　また、こういう場ででも御意見を伺っていただくといいかもしれません。

それでは、衛藤さんから資料の御説明をお願いできればと思います。

■衛藤委員　それでは『たばこの煙から子どもを守るには』という、A4版の冊子に関して説明させていただきます。

2、3ページと目次が書いてあるところを開いていただきますと、国際対がん連合（UICC）というところが始めた「今日の子どもたちは明日の世界」という5年間のキャンペーンの一環として、今年は受動喫煙の防止ということに焦点を当てた冊子をつくりました。それに関して、その日本語版をつくることに若干協力いたしましたので、子どもが育つ過程で、好むと好まざるとに関わらず、たばこの煙を吸ってしまって、健康障害を蓄積していく可能性があるといったことをみんなで防ごうという趣旨でございます。

5ページのところに、私が序文みたいなものを寄せておりますので、ごらんいただきたいと思います。

私どもは小児科関連の団体で、こういった子どもをたばこの害から守る合同委員会というのをやっておりまして、その中でこういったことに協力したわけです。下のパラグラフに書いてございますが、エビデンスというレベルでいうと、実際に子どもが育つ過程でたばこの煙が含まれる有害

物質を長期間吸って、実際に健康障害になったとか、白血病ということが完全に解明されているわけではないんですけれども、そういったリスクがあることは、個別の事象では証明されていることです。ですので、これは社会として、やはりこういったことに配慮していかなくてはいけないということをメッセージとして届けるということで、最後に書いてありますように「子どもたちをタバコの害から守り、健やかで安全に育ち、暮らすことができるような環境の整備に努めて」という観点で、私どもはこれに協力をして、翻訳をして、皆さんに御理解していただきたいと思います。

今日もいろいろ資料の中で出てまいりましたけれども、こういった知識を届けるだけでは不十分で、知識を理解し、それが実際に実行できる。これは私どもの世界では、健康リテラシーということ。実際にわかって、使えるという、高等学校の学習指導要領のところにも、意思決定、行動選択という言葉がございますけれども、これもそうなんですが、実際に自分で決めて、そしてそれを自ら行動、実現する。そこまでをすべての子どもができるようにすることを目標にする必要がありますし、社会全体としても、そういった健康リテラシーというのを高めて、がんの予防にも実際に一人ひとりの方が行動していただくようにすることが大事だと思っています。

■中川座長　ありがとうございました。皆さんから御意見などございますか。若尾さんに対する御意見、御質問でもよろしいのですが、特にございませんか。

今後の進め方について

それでは、よろしければ、先に進みます。議題の第2番目「今後の進め方について」でありますが、私からたたき台的な、少し事務局の意見も聞いているんですが、今後、先駆的ながん、あるいはがん検診の促進、啓発の事例を外部の方を含めたプレゼンテーションをしていただいて、こういうアイデアはどうか、こういう考えはどうかということを委員の皆様に少し評価、コメントをいただくことが1つ。

それから、随分山田さんなどにはおっしゃっていただきましたけれども、それこそ、こういう芸能人をこんなふうに使ったら非常に有効だみたいな、これはなかなか出てくるものではないかもしれませんが、そういう視点も欲しいんですね。ですので、ざっくばらんと申し上げたのは、そういうアイデアが出るような会にしたいと思っていまして、その辺りを、また各委員の皆さん、次回以降の懇談会で少しお話しいただく。具体的にこんなものがいいのではないかというのもですね。

残念ながら、啓発についての予算が十分にあるというわけではないようですから、その中でやはりてこになるような考え方を、特に企業が動くようなこと。あとは、やはり国民が、これは大事なんだと心にすとんと落ちるところですね。そういうアイデアが皆さんから出てくだされば なと思っています。

その申し上げた2つのやり方を、事例集としてまとめてみてはという考えもありますし、ともかくブレーンストーミング的にどんどん次回以降、お考えを出していただくことが必要かなと思っています。

それでは、今の件に関して、あるいはこんな懇談会の在り方、進め方がいいという御意見はご